

木祖村の魅力ポイント

■面積 140.50km² ■人口 約2,700人 ■指定地域 過疎・振興山村・特定農山村

- 名古屋市に流れ込む木曾川源流の里 → “木祖”村
- 面積の大部分は山林が占める山間地域（林野率91.19%）
- 高原野菜「御嶽はくさい」の産地 ⇒ 漬物へ
- 標高1,000m以上の畑で育つトウモロコシも甘くて人気
- 古くから伝統工芸品「お六櫛」をはじめとした木製品工業が盛ん
- 夏は「こだまの森」でキャンプやスポーツ等のアウトドア、冬は「やぶはら高原スキー場」でのレジャー、また日本遺産に認定された「中山道鳥居峠」「水木沢天然林」等のトレッキング、ダム湖カヌー体験などの自然資源を活かした観光に力を入れている。
- 木曾川上下流交流事業を積極的に推進
 - ・ 下流から毎年、農業体験や味噌川ダムのカヌーで大勢の観光客 ✓ 名古屋市200万人！
 - ・ 名古屋市内にアンテナショップを設置し、木祖村をPR ✓ 継続的な交流が定着！



特産物の高原野菜「御嶽はくさい」



夏のキャンプ等を中心とした「こだまの森」



伝統工芸品「お六櫛」

木祖村の課題

■ 政策分野 移住・定住推進等（主に空き家対策等）

■ 移住・定住推進に係る施策等

- 空き家…人口減少に伴い、空き家が増加。所有者・移住者の間で売却や賃貸の意向が異なり、うまく合意に至らず利活用が思うように進まない。
(→空き家の賃貸物件が少ないため、移住希望者は賃貸の村営住宅を選ぶことが多い。一方、村営住宅の供給も追いつかないため、移住希望者がいても受け入れるのが難しい現状にある。)
- 地域の魅力発信、移住後の持続性、地域づくり人材の発掘、鳥獣被害、地域公共交通等についても課題感。
(→網羅的に各課題の解決を図るには、行政側のマンパワーが絶対的に不足。このため、村の実態に即し、各課題の解決に向けた中長期的な計画や工程表を作成し、実効性のある取組につなげる必要がある。)

応援隊の活動報告

これまでの活動

- 2022年 8月 現地に赴いて現状を確認
- 2023年 1月 Web会議
- 2023年 6月 Web会議
- 2023年 8月 Web会議

取組の成果

- 課題の洗い出し、解決への道筋となる制度の紹介

今後の展望

- 相談に応じて空き家対策の好事例・その他課題の関連施策を紹介